古文単語　敬語から主語を読む　①

高校／尊敬と謙譲から、動作をする人と敬意の向きを決める

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

尊敬語は「動作をする人」へ、謙譲語は「動作を受ける人」へ敬意を向ける。
敬意を表す人（だれから）は、地の文なら「作者」、会話文（「」の中）なら「話し手」。
表に、――線①～⑧の敬語の種類（尊敬・謙譲）、動作をする人、敬意の向き（だれから→だれへ）を書く。
人は記号で答える。

人物の記号　ア 作者　イ 大納言　ウ 男ども（家来）　エ 神（楫取の御神）　オ 帝　カ 内侍（帝に仕える女官）

（A）場面　大伴の大納言は、龍の首の玉をとってくるよう、家来の男どもに命じた。

男ども仰の事を①承りて……大納言②のたまふ、「……」男ども③申すやう、「さらばいかがはせん。難きものなりとも、仰事に従ひてもとめにまからん。」（竹取物語）

（B）場面　龍を殺そうとして海に出た大納言は、嵐にあい、かじ取りにすすめられて神に祈る。

「よきことなり。」とて、「楫取の御神④きこしめせ。……」と、祝詞をはなちて、……（竹取物語）

（C）場面　帝の命令でかぐや姫の家へ行った内侍（ふさ子）が、宮中へ戻ってきた。

この内侍帰り⑤参りて、このよしを⑥奏す。帝⑦きこしめして、「多くの人を殺してける心ぞかし。」と⑧のたまひて、……（竹取物語）

問1

	種類	動作をする人	敬意（から）		敬意（へ）
① 承り				→	
② のたまふ				→	
③ 申す				→	
④ きこしめせ				→	
⑤ 参り				→	
⑥ 奏す				→	
⑦ きこしめし				→	
⑧ のたまひ				→	

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます